

「「「

北方建築総合研究所 NEWS LETTER

北方かわらばん

Mail Magazine VOL. 32 2012/04/17

「「「

「北方かわらばん」は、地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 建築研究本部 北方建築総合研究所（旧・北海道立北方建築総合研究所）が発行しているメールマガジンです。

ホームページ等で配信登録された方にお送りしています。

アドレスを登録した覚えのない方、登録内容の変更、配信停止は【管理者からのお知らせ】をご覧ください。このメールアドレスは配信専用のため、返信できませんのでご了承ください。

※MSゴシックなどの等幅フォントをご覧ください。

＝＝＝

今月号のトピックス

＝＝＝

第32号の内容はこちらです。

■イベントのお知らせ

□平成24年北方建築総合研究所調査研究発表会（旭川）を開催します。

■特集 「既存住宅の省エネ・エコ改修のススメ」

■研究紹介 「冬季の歩行安全性評価方法に関する研究」

■最近の研究所の動き

□北海道セミナー・シンポジウム

『住まいの「長期優良・省CO2化」を考える。』を開催しました

□人事情報

□3月の業務報告

□構造計算適合性判定センターから

＝＝＝
イベントのお知らせ
＝＝＝

■【平成24年北方建築総合研究所調査研究発表会（旭川）を開催します。】

日 時：平成24年5月17日10：00～16：30
会 場：大雪クリスタルホール（旭川市神楽3条7丁目）

北総研が取り組む住まいや建築・まちづくりの研究について、平成23年度に終了した29課題の研究結果を発表します。

「建物の保全と構造」「省エネルギーと室内環境」「地域と建築」「安全・安心な地域づくり」「材料活用と長寿命化技術」の5つのセッションで行います。また、特別報告として、ドイツの省エネルギーに関する最新情報を報告します。

最新の情報・案内チラシ・参加申込書については、次のホームページからダウンロードできます。

<http://www.nrb.hro.or.jp/120517happyoukai.html>

お忙しい時期であるかと思いますが、皆さまのご参加をお待ちしております。

（企画課 神田）

＝＝＝
特集 「既存住宅の省エネ・エコ改修のススメ」
＝＝＝

北海道の住宅に関するCO2排出量は、全国に比較して特に暖房に係るエネルギー消費が多くなっています。この住宅分野のCO2を削減するためには、新築のみならず、約37万戸とも言われる既存住宅の断熱改修を促進する必要があります。

しかし、断熱改修は費用対効果が見えづらいこと、どの様な改修が効率的か分かりにくいなど、ユーザーや事業者が的確な情報を得られにくい状況であると言えます。

このため、それらの情報を容易に得ることができるプログラムとして、「木造住宅の省エネ・エコ効果表示プログラム」を道庁建築指導課と当所が共同で作成しました。

プログラムの内容は、デグリーディ法によりエネルギー消費量などを算出するもので、建設地域や既存住宅の仕様、設備機器などの各データを入力した後、改修工事の内容を選択入力することで、改修前後の暖房・給湯等の消費エネルギー量やCO2排出量の表示、エネルギー削減率、概算工事費が算出されます。このプログラムは、まだ改修について具体的な検討や情報収集などを行って

ない、改修予備軍の方々でも使用できるように、既存住宅の断熱仕様などについてわからない場合でも建設年代から推測して算出することができます。また、改修内容はお勧め改修ボタンを設けるなど、手軽に操作できるようにしています。事業者が使用する場合には、省エネ効果などを把握し、それをユーザーへの具体的な説明などに使用できます。

本プログラムを活用して、省エネ・エコ改修をススメて頂ければと思います。今年度は、昨年度に引き続きこのプログラムや普及資料を使用して現地講習会などを予定しています。

なお、できるだけ使いやすいプログラムとするためにご意見を募集しています。よろしくお願い致します。

「木造住宅の省エネ・エコ効果表示プログラム」 www.nrb.hro.or.jp/eco/

(居住科学G 廣田)

=====
研究紹介 「冬季の歩行安全性評価方法に関する研究」
=====

北海道は降雪による凍結路面と氷点下の気温という気象条件により冬期間の外出が抑制されています。特に高齢者や障がい者にとって、転倒したときのケガによる被害は大きくその後の生活に支障をきたすことも多い状況です。歩行時の転倒の原因は歩行者と歩行環境に原因が分類され、床材・積雪・靴などにより転倒リスクが変動するため、歩行時の滑りやすさと転倒危険性について総合的に評価することが必要です。

冬季転倒要因を調査すると、屋外での転倒は滑りにより発生し雪道転倒により救急搬送される方は、時間歩行者が増える朝と夕方に多く、年齢層は高齢者が多い状況でした。また、冬季の歩行特性を把握するために動作解析実験を行い、路面状況の影響による歩行の変化として歩行速度や足の振り上げを調整して転倒しないようにしていました。

歩行安全性試験方法の検討を行い、積雪状況での靴や滑り止め材の効果を実験室内で測定できるように滑り性試験方法を提案しました。建築物の管理状況の評価や施設計画に関するの情報提供や、靴や滑り止めの製品開発の支援も対応します。また、JIS A 1454に準じた冬季積雪条件の床滑り試験の依頼試験も引き続き受け付けておりますので、御利用ください。

(居住科学G 林)

=====
最近の研究所の動き
=====

◆ 4月1日付け新規採用

石井 旭 (居住科学部居住科学G)
中村拓郎 (環境科学部構法材料G)

◆ 4月1日付け所内の動き

福島 明 (企画調整部長 → 副所長)
江崎貴之 (企画調整部企画課企画G → 総務部総務課)

※※※

■ 【3月の業務報告】

平成24年3月の受付件数

□依頼試験 (担当: 性能評価課)

依頼試験 3件 (累計 129件)
設備使用 1件 (累計 31件)
性能評価 0件 (累計 12件)

□施設見学 (担当: 企画課)

件数 7件 (累計 77件)
人数 21名 (累計 1033名)

□技術相談 (担当: 企画課)

件数 24件 (累計 229件)

※累計は、平成23年4月～平成24年3月の累計を表示しています。

※※※

■ 【構造計算適合性判定センターから】

□3月の判定業務

受付 42件 (57棟)
結果通知 32件 (47棟)

3月の判定依頼は、共同住宅11件、倉庫・車庫8件、工場等8件、その他倉庫・車庫、事務所、医療施設等でした。

総判定日数 (受付から結果通知までの期間) の平均は32.8日、実判定日数

(設計者の修正期間を除く実際の審査期間)の平均は10.5日でした。

(構造判定G 十河)

※※※

【編集後記】

4月1日に新規採用、転出入などの人事異動があり、北総研も新しい体制でのスタートをきりました。

特に、今年度は、北方建築総合研究所として、旭川市に移転してから10周年を迎え、真価を問われる節目の年でもあります。道総研の一員として、これまで以上に関係機関と協力しながら安心して暮らせる地域づくりに向けて取り組んでいきたいと考えておりますので、ご支援、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

(企画課 細谷)

=====
管理者からのお知らせ
=====

アドレスを登録した覚えのない方は、お手数ですが下記の各種お問い合わせ専用アドレス宛てにメールにてお知らせください。

登録内容の変更や配信停止は、下記のアドレスをクリックしていただき、ホームページ上で手続きを行ってください。クリックしても正しく表示されない場合は、アドレスをコピーしてブラウザに貼り付けてご利用ください。

メールアドレスの変更、配信停止の手続きを行ったにもかかわらず、行き違いにより配信される場合がございますので、ご了承ください。

■購読申込・変更・配信停止はこちら

http://www.nrb.hro.or.jp/provide/sendmail_newsletter.html

変更・配信停止の場合は、ご意見、ご質問欄に「変更」または「配信停止」と記載してください。

■各種お問い合わせメールフォーム

<http://www.nrb.hro.or.jp/sendmail.html>

ご登録いただいた情報は、メールマガジンの配信及びイベント情報の配信を目的として利用し、それ以外の目的に使用することはありません。